

どっと原価シリーズ

見積データ読込モジュール
マニュアル

【目 次】

I. 見積データ読込モジュール	1
1. 概要	1
2. 導入に関する制約事項	1
3. 準備	2
4. 既定書式	3
II. 受入パターンを作成	4
1. パターン設定画面	4
2. パターン作成例①	6
3. パターン作成例②	7
5. パターン作成例③	8
III. 見積入力画面で受入	10
1. 見積入力画面	10
2. 見積データ読込	11
3. 見積入力画面へ引用	12
4. 環境の注意点	13

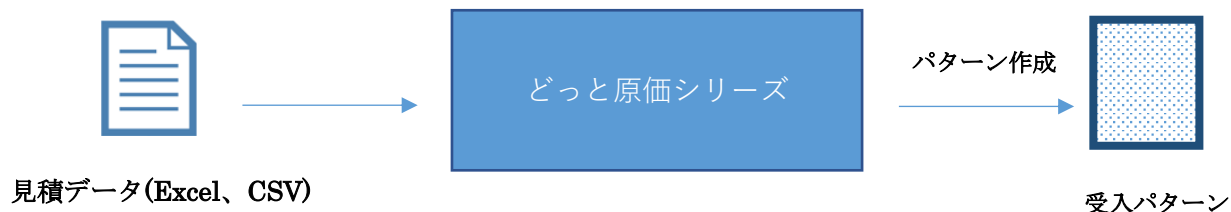
I. 見積データ読込モジュール

1. 概要

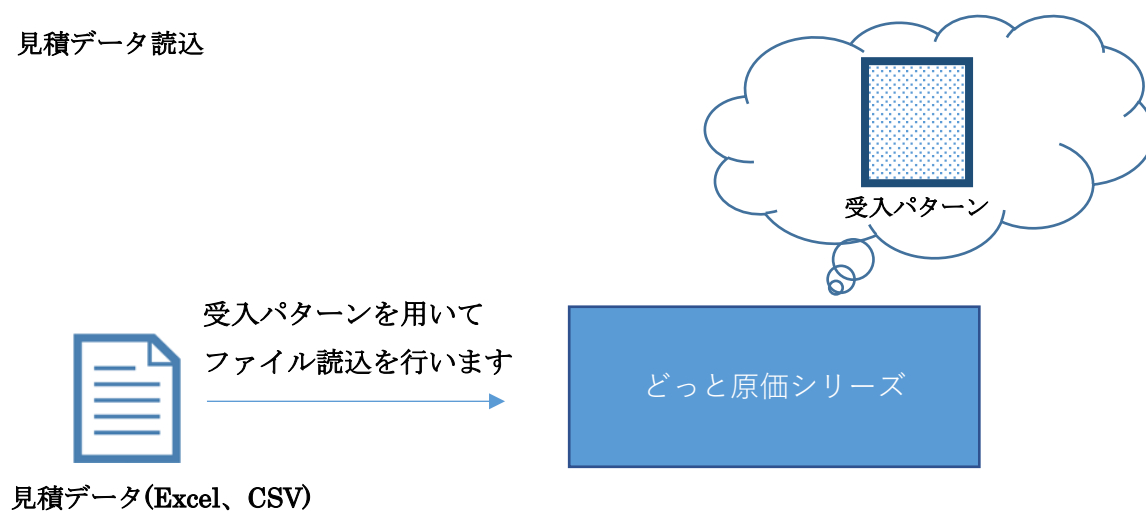
「受入パターン」を用いて、見積データの外部取込を行います。

任意の「受入パターン」作成も可能になっています。

パターン作成



見積データ読込



＜既定パターン・既定ファイル＞

どっと原価シリーズインストール時に、「既定パターン」「既定ファイル」も同時にインストールされます。基本的に、「既定ファイル」に合わせて、「データ貼付」、「ファイル読込」という流れになります。

※既定パターン・既定ファイルで対応できない、もしくは自社書式での読込が必要な場合、新規パターン作成を行うことになります（「Ⅱ.受入パターンを作成」を参考にして下さい）。

2. 導入に関する制約事項

○が付いている製品で、本オプションをご導入いただけます。

	どっと原価NEO				どっと原価3		
	LT	ST	EX	Iaas	ライト	スタンダード	エキスパート
見積データ読込	○	○	○	○	○	○	○

3.準備

小数点設定：ファイル受入時に、「数量」「単価」は、どっと原価シリーズの小数点設定を用いて変換されます。
「会社設定」・「端数設定」より、小数点設定（少数三位まで）を行うことができます。

見積・請求売上		
数量小数点	1	小数一位
単価小数点	1	小数一位
金額小数点	0	小数なし
金額端数	2	四捨五入
消費税端数	1	切り捨て
行属性端数	2	四捨五入
予算・発注		
積上数量小数点	2	小数二位
積上単価小数点	0	小数なし
積上単価端数	1	切り捨て
予算・発注・原価		
数量小数点	1	小数一位
単価小数点	1	小数一位
金額小数点	0	小数なし
数量端数(率からの割戻)	2	四捨五入
金額端数	2	四捨五入
消費税端数	1	切り捨て

項目名称設定：見積入力・サブツールバーの項目名称設定が可能です。既定値は「見積データ読込」です。

マスター及び入力画面選択		見積		※ 桁数は半角入力時の桁数となります。		
項目名	ユーザー定義名	属性	桁数	最大桁数	小数桁数	
工事条件6	工事条件6	0	数字	4	4	
工事条件7	工事条件7	0	数字	4	4	
工事条件8	工事条件8	0	数字	4	4	
補助項目1	補助項目1	0	数字			
補助項目2	補助項目2	0	数字			
補助項目3	補助項目3	0	数字			
補助項目4	補助項目4	0	数字			
補助項目5	補助項目5	0	数字			
補助項目6	補助項目6	0	数字			
見積データ読込	見積データ読込	3	名称	16	16	

!!

＜既定設定によるデータ読込＞

既定パターンと既定ファイル（VXX 見積原価明細書(読込専用)_書式.xlsx）を用いることで、パターン作成の手間が省け、既定ファイルへのデータ貼付のみでデータ読込を行うことができます。

※・「Ⅲ. 見積入力画面で受入」で既定パターン・既定ファイルによる読込を記述しています。

- ・見積原価明細書の出力より、既定ファイルの出力が可能です。
- ・既定ファイル名の「VXXX」の部分は、どっと原価シリーズのバージョンによって変わります。

II. 受入パターンを作成

1. パターン設定画面

メニュー：[導入]－[設定]－[読込レイアウト設定]

①ヘッダー部

処理区分	見積		
パターン		受入行	～
受入参考ファイル		見出し行	終了空行数
Excelシート名			



- パターン** : 任意のパターン名称の設定が可能です。
- 受入参考ファイル** : 受入対象となるファイルを選択します。
- Excel シート名** : 受入参考ファイルが Excel ファイルの場合、シート選択が可能になります。
- 受入行** : ファイルの「データ」部を指定します。
- 見出し行** : ファイルの「列名」部を指定します。
- 終了空行数** : 空白行が連続した場合の、読み込み終了値を指定します。
※基本的には空白で問題ありません。

②紐づけ設定部

受入項目リスト					参考ファイル項目リスト		
No.	項目名	列	受入内容	必須	No.	列	受入内容
1	階層レベル			○			
2	行属性区分						
3	明細コード						
4	明細名1						
5	明細名2						
6	見積税処理区分						
7	見積数量						
8	見積単位						
9	見積単価						
10	見積金額						
11	見積消費税						
12	見積税率						
13	見積要素内訳コード						
14	原価税処理区分						
15	原価数量						
16	原価単位						
17	原価単価						
18	原価金額						
19	原価消費税						
20	原価税率						
21	原価要素内訳コード						
22	業者コード						
23	備考1						
24	備考2						

<< 追加

削除 >>

全て削除 >>

↑ ↓



- 受入項目リスト** : どっと原価シリーズ側の項目です。
- 参考ファイル項目リスト** : 「受入参考ファイル」の項目です。「見出し行」の読込を行います。

③補助部

<input type="checkbox"/> 階層文字列を使用する		受入除外変換項目				
階層判断列	▼	No.	列	処理内容	対象値	変換後行属性
階層判断基準(1)	半角数字 ▼	*				
階層判断基準(2)	半角数字 ▼					
階層判断基準(3)	半角数字 ▼					
階層判断基準(4)	半角数字 ▼					



階層文字列を使用する：「階層番号」以外で、階層認識を行う場合に使用します。

※「初期設定」-「見積情報」の入力階層により、規定の「階層番号」認識が異なります。

・入力階層が4階層

費目：1、工種：2、種別：3、品名：4（もしくは空白）

・入力階層が6階層

費目：1、工種：2、種別：3、細別：4、細別内訳：5、品名：6（もしくは空白）

階層判断列：階層認識の文字が入力されている列を指定します。

階層判断基準：上位階層から該当文字を指定します。

※「初期設定」-「見積情報」の入力階層が4階層の場合（1）～（4）、6階層の場合（1）～（6）まで設定できます。

受入除外変換項目：指定列にその項目が存在する場合、読込から除外、または指定した行属性に変換します。

2. パターン作成例①

処理区分

見積

パターン

パターン例1

取込シートを選択

受入行

5

見出し行

4

終了空行数

受入参考ファイル

C:\Program Files (x86)\KD\W\DotGenkaNEOClient\Temp\見積書.xls

Excelシート名

見積明細

4行目の見出し行を取得

受入項目リスト

No.	項目名	列	受入内容	必須
1	階層レベル	A	階層	○
2	行属性区分			
3	明細コード			
4	明細名1	B	名称	
5	明細名2			
6	見積税処理区分			
7	見積数量	C	数量	
8	見積単位			
9	見積単価	D	単価	
10	見積金額	E	金額	
11	見積消費税			
12	見積税率			
13	見積要素内訳コード			
14	原価税処理区分			
15	原価数量			
16	原価単位			
17	原価単価			
18	原価金額			
19	原価消費税			
20	原価税率			
21	原価要素内訳コード			
22	業者コード			
23	備考1	F	概要	
24	備考2			

<< 追加

削除 >>

全て削除 >>

どっと原価シリーズ項目と紐づけ

参考ファイル項目リスト

No.	列	受入内容
1	A	階層
2	B	名称
3	C	数量
4	D	単価
5	E	金額
6	F	概要

↑

↓

☐ 階層文字列を使用する

階層判断列

階層判断基準(1)

半角数字

階層判断基準(2)

半角数字

階層

階層

F列：概要列の「ハイフン」除外設定

受入除外変換項目

No.	列	処理内容	対象値	変換後行属性
1	F	除外	-	
*				

取込対象の Excel

見出し行		見積明細				
階層	名称	数量	単価	金額	摘要	
1	直接工事費			1533318		
2	給排水衛生設備工事			1533318		
3	屋内給水			1030716		
	水道用硬質塩ビ管	20	800	16000	トイレ 40A	
	水道用硬質塩ビ管	15	550	8250	トイレ 25A	
	水道用硬質塩ビ管	50	850	42500	トイレ 32A	
	継手類	1	45000	45000	-	
	支持金物	1	5520	5520	-	



階層認識は階層番号で行います。

「費目階層：1、工種階層：2、種別階層：3、品名階層：空白」

3. パターン作成例②

処理区分

見積

パターン

パターン例2

受入参考ファイル

C:\Program Files (x86)\KDW\DotGenkaNEOClient\Temp\見積書.xls

Excelシート名

見積明細

受入行

5

見出し行

4

終了空行数

受入項目リスト

No.	項目名	列	受入内容	必須
1	階層レベル	A	階層	○
2	行属性区分			
3	明細コード			
4	明細名1		パターン作成例①と基本的な設定は同じ	
5	明細名2			
6	見積税処理区分			
7	見積数量	C	数量	
8	見積単位			
9	見積単価	D	単価	
10	見積金額	E	金額	

<< 追加

削除 >>

全て削除 >>

参考ファイル項目リスト

No.	列	受入内容
1	A	階層
2	B	名称
3	C	数量
4	D	単価
5	E	金額
6	F	摘要

↑

↓

<階層文字列を使用>

- ・ A 列が階層認識列
- ・ 費目：半角英大文字→A
- 工種：半角英小文字→a
- 種別：半角数字→1
- 品名：空欄は無条件で品名階層

☒ 階層文字列を使用する

階層判断列

A

階層判断基準(1)

半角英大文字

階層判断基準(2)

半角英小文字

階層判断基準(3)

半角数字

階層判断基準(4)

半角数字

受入除外変換項目

No.	列	処理内容	対象値	変換後行属性
1	F	除外	-	
*				

A	B	C	D	E	F
見積明細					
階層	名称	数量	単価	金額	摘要
A	直接工事費			1533318	
a	給排水衛生設備工事			1533318	
1	屋内給水			1030716	
	水道用硬質塩ビ管	20	800	16000	トイレ 40A
	水道用硬質塩ビ管	15	550	8250	トイレ 25A
	水道用硬質塩ビ管	50	850	42500	トイレ 32A
	継手類	1	45000	45000	-
	支持金物	1	5520	5520	-



費目：A となっていますが、文字指定は存在せず、費目：B や工種：c でも問題ありません。
「階層判断基準」の文字を満たすよう、書式設定を行ってください。

5. パターン作成例③

処理区分

見積

パターン

パターン例3

受入参考ファイル

C:\Program Files (x86)\KDW\DotGenkaNEOClient\Temp\見積書.xlsx

Excelシート名

見積明細

受入行

5

~

見出し行

4

終了空行数

受入項目リスト

No.	項目名	列	受入内容	必須
1	階層レベル	A	階層	
2	行属性区分	G	行属性	
3	明細コード			
4	明細名1	B	名称	
5	明細名2			
6	見積税処理区分			
7	見積数量	C	数量	
8	見積単位			
9	見積単価	D	単価	
10	見積金額	E	金額	
11	目録コード			
12				
13				
14				
15				
16	原価数量			
17	原価単位			
18	原価単価			
19	原価金額			
20	原価消費税			
21	原価税率			
22	原価税率種別			
23	原価要素内訳コード			
24	業者コード			
25	備考1	F	摘要	
26	備考2			

<< 追加

削除 >>

全て削除 >>

パターン作成例①と基本的な設定は同じ

ただし「行属性変換」を使用する場合「行属性区分」設定必須

参考ファイル項目リスト

No.	列	受入内容
1	A	階層
2	B	名称
3	C	数量
4	D	単価
5	E	金額
6	F	摘要
7	G	行属性

↑

↓

☐ 階層文字列を使用する

受入除外変換項目

No.	列	処理内容	対象値	変換後行属性
1	F	行属性変換	-	2 諸雑費

F 列：摘要列の「ハイフン」行属性変換設定

見積明細

階層	名称	数量	単価	金額	摘要	行属性
1	直接工事費			1533318		
2	給排水衛生設備工事			1533318		
3	屋内給水			1030716		
	水道用硬質塩ビ管	20	800	16000	トイレ 40A	
	水道用硬質塩ビ管	15	550	8250	トイレ 25A	
	水道用硬質塩ビ管	50	850	42500	トイレ 32A	
	継手類	1	45000	45000	-	
	支持金物	1	5520	5520	-	



行属性変換設定で指定できる行属性は以下になります。

「1：値引、2：諸雑費、8：コメント、51：小計」

処理内容が空欄の場合は、除外と同じ動作になります。



行属性変換を使用する場合、受入項目リストの「行属性区分」は設定必須です。
そのため、受入参考ファイルに行属性の列が無い場合は以下どちらかの方法を行ってください。

処理区分: 見積
パターン: パターン例3
受入参考ファイル: C:\Program Files (x86)\KDW\DotGenkaNEOClient\Temp\見積書.xlsx
Excelシート名: 見積明細

受入行: 5
見出し行: 4
終了空行数: 0

受入項目リスト

No	項目名	列	受入内容	必須
1	階層レベル	A	階層	
2	行属性区分	G	行属性	
3	明細コード			
4	明細名1	B	名称	
5	明細名2			
6	見積税処理区分			
7	見積数量	C	数量	
8	見積単位			
9	見積単価	D	単価	
10	見積金額	E	金額	

参考ファイル項目リスト

No	列	受入内容
1	A	階層
2	B	名称
3	C	数量
4	D	単価
5	E	金額
6	F	摘要
7	G	行属性

<< 追加
削除 >>
全て削除 >>

- ① 受入参考ファイルの Excel に行属性の項目を追加して行属性区分に設定します。

A	B	C	D	E	F	G
見積明細						
階層	名称	数量	単価	金額	摘要	行属性
1	直接工事費			1533318		
2	給排水衛生設備工事			1533318		
3	屋内給水			1030716		
	水道用硬質塩ビ管	20	800	16000	トイレ 40A	
	水道用硬質塩ビ管	15	550	8250	トイレ 25A	
	水道用硬質塩ビ管	50	850	42500	トイレ 32A	
	継手類	1	45000	45000	-	
	支持金物	1	5520	5520	-	

- ② 既にある列で値が全て空の列を行属性区分に設定します。

A	B	C	D	E	F	G
見積明細						
階層	名称	数量	単価	金額	摘要	備考(手入力用)
1	直接工事費			1533318		
2	給排水衛生設備工事			1533318		
3	屋内給水			1030716		
	水道用硬質塩ビ管	20	800	16000	トイレ 40A	
	水道用硬質塩ビ管	15	550	8250	トイレ 25A	
	水道用硬質塩ビ管	50	850	42500	トイレ 32A	
	継手類	1	45000	45000	-	
	支持金物	1	5520	5520	-	

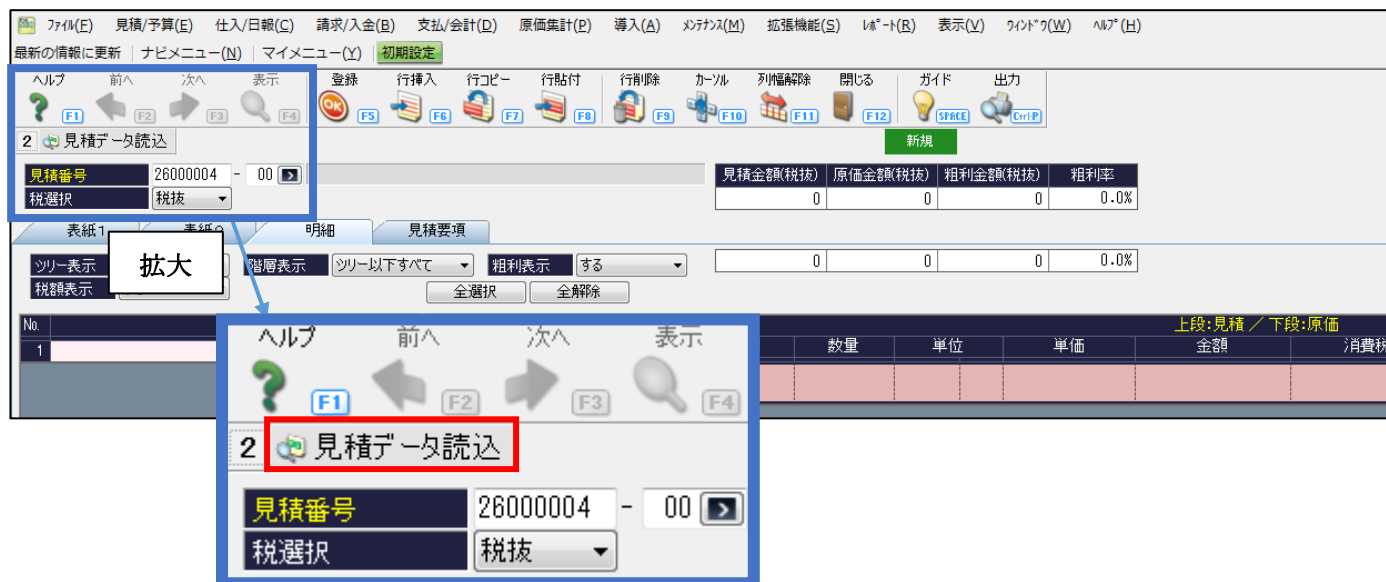
III. 見積入力画面で受入

1. 見積入力画面

メニュー：[見積/予算] - [見積入力]

見積入力画面より、「見積データ読込」機能を利用してデータ受入を行うことができます。

なお、「見積データ読込」機能は下図のようにサブツールバーから利用できます。



「見積データ読込」は、明細部にカーソルが存在する時だけ利用できます。

2. 見積データ読込

「見積データ読込」ボタンを押下し、「見積データ読込」画面を開き、見積ファイルを選択します。
その後、受入条件設定を元に「表示（受入）」ボタンを押下することでファイルの内容が画面に表示されます。

<受入条件設定>

パターン

: 受入に用いるパターンを設定します。
既定パターン、もしくは新規で作成したパターンを選択して下さい。

ファイル名

: 受入ファイルを選択します。

受入行

: データ部分を指定します。※見出し行を除く

見出し行

: 列名（金額や単位等）を示す行を指定します。

終了空行数

: 受入データに空白行がある場合、何行目の空白行で読込終了するかを設定します。設定しない場合は最終行まで読み込みます

Excel シート名

: 受入ファイルのシート名を指定します。

引用時の再計算(金額)

: 「しない」→表示されたデータをそのまま引用します。

※「費目、工種、種別、細別、細別内訳」の積上金額は必ず再計算されます。

「数量×単価で金額再計算」→数量×単価で金額を算出します。

「金額÷数量で単価割り戻し」→金額÷数量より単価を算出します。

引用時の再計算(消費税)

: 「しない」→表示されたデータをそのまま引用します。

※消費税がデータに存在しない場合は再計算されます。

「する」→金額、税率を用いて、消費税再計算を行います。

品名階層作成

: 受入データの最下層を品名行として取り込むことができます。

詳しくは、p.11～12 をご確認ください。

3. 見積入力画面へ引用

引用する明細にチェック(☑)を付け、「登録」ボタンを押下することでデータが引用されます。

なお「全選択」ボタンを押下することで全明細にチェック(☑)を付けることができます。

The screenshot shows the '見積入力画面' (Estimate Input Screen) with the '引用' (Reference) button highlighted. Below it, the '引用選択' (Reference Selection) table is shown with rows 1 through 6. Row 1 is highlighted in orange, and rows 2 through 6 are highlighted in green. The 'チェック' (Check) column for rows 1 through 6 is checked (☑). A blue arrow points from the '引用' button to the '引用選択' table, and another blue arrow points from the '引用選択' table to the '引用' button.

No.	チェック	行属性	コード	名称	税処理	数量	単位	上段:見積 / 下段:原価 単価	金額
1	<input type="checkbox"/>	0 通常		直接工事費			1式		66,750
2	<input type="checkbox"/>	0 通常		給排水衛生設備工事			1式		66,750
3	<input type="checkbox"/>	0 通常		屋内排水		1.00	1式	66,750	66,750
4	<input type="checkbox"/>	0 通常		水道管硬質塩ビ管	1 外税	20.00		800.0	16,000
5	<input type="checkbox"/>	0 通常		水道管硬質塩ビ管	1 外税	15.00		550.0	8,250
6	<input type="checkbox"/>	0 通常		水道管硬質塩ビ管	1 外税	50.00		850.0	42,500

<引用時の調整>

- ・「費目、工種、種別、細別、細別内訳」の積上金額は、引用時に必ず再計算されます。
- ・「名称、備考」などで最大文字数を超過した分は、引用されません。
- ・「費目、工種、種別、細別、細別内訳」の「明細名1」「明細名2」は結合して引用されます。
- ・条件設定の「品名階層作成」の設定により取り込むことができる行属性が異なります。
品名階層作成「する」の場合、行属性は「0：通常」として取り込まれます。
品名階層作成「しない」の場合、行属性「0：通常」「1：値引」「2：諸雑費」「8：コメント」「51：小計」を取り込むことができます。その他の行属性は「0：通常」として取り込まれます。
- ・積上行の単位は初期設定-見積情報の「積上行の単位表示」が適用されます。

<受入ファイルの各項目が空欄、もしくは不正な場合>

- ・「税処理」「内訳コード」は、初期設定-原価情報の「費目・工種・種別・品名」既定値が引用されます。
- ・「税率区分」は表紙1タブの「消費税計算」を元に決定されます。

4. 環境の注意点



・ファイル受入時の「数量」「単価」「金額」は、「会社設定」・「端数設定」の小数点表示に従います。
設定された小数点以下は切り上げが行われます

・条件設定の「品名階層作成」の設定により階層の取り込み方法が異なります。

＜品名階層作成：する＞

3 階層以下のデータを持つファイルを受入れる場合は最下層が品名行に変換されます。

例) 下図のように「費目、工種、種別」までのデータは、ファイル受入時に「費目、工種、品名」に変換されます。

＜品名階層作成：しない＞

ファイルに設定されている階層として受入します。

「費目、工種、種別」までのデータでも品名階層は作成しません。

レベル	行属性名	コード	品名	規格	見積税処理区分	見積税処理区分名	見積数量
1		101	直接工事費				
2		302	給排水衛生設備工事				
3			水道用硬質塩ビ管	トイレ 40A	1	外税	20.00



変換

レベル	行属性名	コード	品名	規格	見積税処理区分	見積税処理区分名	見積数量
1		101	直接工事費				
2		302	給排水衛生設備工事				
4			水道用硬質塩ビ管	トイレ 40A	1	外税	20.00
4			水道用硬質塩ビ管	トイレ 25A	1	外税	15.00

初 版 2015 年 12 月 15 日

第 8 版 2025 年 2 月 26 日

製作・著作 株式会社 建設ドットウェブ

<https://www.kendweb.net/>

ご 注 意 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。

本書の内容に関しては訂正・改善のため、予告なしに変更することがあります。
